

感想文④東京大学見学会について

私が今回この東大見学会に参加した理由は、東京大学という日本一の大学をこの目でみたかったからである。

そもそも私は、大学はどのような場所で、どのような人たちが何を学んでいるのかを全く知らなかった。私の中の大学のイメージというと、自分が学びたい学問に一生懸命食らいついて、勉強に励み、それ以外何もしないものだと思い込んでいた。だから正直なところ、今までは自ら進んで大学に行きたいとも思わなかったし、大学を卒業したほうが就職に有利だからくらいにしか、大学進学を捉えていなかった。そんな私にとって、東京大学は夢のまた夢のような存在だった。今回のこの機会を逃したら、もう二度と東京大学に行くことはないかもしれないとさえ思っていた。そしていざ東京大学に行ってみると、様々な収穫があった。

まず、東京大学は本当に駅から近くにあり、いきなり私の目の前に噂の赤門が立ちはだかった。大学受験期にテレビで放送される映像とは比べものにならないくらいの堂々たる姿がそこにあっただ。街中にあるために人は多いが、通学には困らないなと思った。私はその東京大学の魅力や感動したことを含めて四つに分けて記述したいと思う。

第一に、東大のカリキュラムについてである。東大では、入学してからの二年間は、全学生共通教養学部で学び、広い視野と総合的な判断力を身につける。そして三年目からは自分で選択した学科で学び始める。私は、広い視野を持つという点で専門分野以外の科目を学べる良い機会だと思った。それに高校時代では、本当にやりたいことはなんなのか、このままの自分の身の振り方でいいのかなど、将来について漠然としか考えることができない。それは、高校時代が考える暇もないような超多忙な時期だからであり、これによって高校生は、十分な時間を設けずに早々と自分の進路を決めてしまいがちである。だから、入学後実際に学び始めて、違和感や後悔が生じることがあるのではないかと思う。しかし、東大は前述のようなカリキュラムによって、その問題を解決し、しっかりと自分の将来の筋道を考える時間を私たちに与えてくれると思う。

第二に、大学生の生活についてである。大学生には時間にゆとりがある。その時間をいかに使うかは人それぞれである。例えば、サークル活動、バイト、研究などと様々である。これらに共通するのは自主性である。これまでとは異なり、誰かから何かを言われてするのではなく、最初から最後まで物事を成し遂げることが求められる。社会も、大学生を子供として扱わず、大人として扱うだろう。自主性が社会的にも認められるということは、一見自由であるように思われる。しかし、自主性の尊重とは、自分でしたことの責任を自分でもつということでもある。これは、私たちが大人になったときに求められるものである。このようなものを身につけていくのが大学生活であると思う。東大の先輩方の話からも、それが感じられる。大学生活を楽しめるのは、そういった自己管理がしっかりとできているからだと思う。例えば、大学生は必要な単位をとるために、自分で時間割を決めて、スケジュールを組み立てなくてはならない。授業を受けて勉強をして単位をとりつつ、たまには休息日を作ったり、サークル活動で汗を流したり、友人との会話を楽しんだり。週末に飲みに行くのも、自分次第で人それぞれ計画することができる。が、中には単位を落としてしまい、苦勞する人もいるのだそう。ここに私は、誰のせいにもできないという自己責任の重さを感じた。高校では時間割は決められているが、それ以外の時間をどう使うのかについては自分次第、つまり自己責任である。その意味で言えば、高校生活は大学生活に通じており、今からのスケジュールリング能力の育成は大学生活で大いに役立つということだ。

第三に、東大はいろいろなつながりをもつ大学だ。まず驚くべきはその規模である。東大は日本トップクラスの大学として有名であり、国内のみならず、世界からも注目されている大学である。そのため日本全国、さらには海外から優秀な人材がたくさん集まってくる。そうした人たちと意見交換をし、共に学び合うことで良い刺激になり、それがお互いの能力を高め合うことにつながる。現にそれを表すかのように、東大出身者には各分野で成功を修めている人々が大勢いる。東大というものを通じて、OB,OG とつながることができるのだ。それが自

分にとってプラスになる。もしかしたら、就職にも生きてくるかもしれない。また、私は東大を見学している時、日本の学生と海外の学生が楽しそうに会話しながら歩いている様子を目の当たりにして、英語という言葉が必須だと改めて実感した。東大生の話からも、英語が要らない学問はない、海外とのつながりは英語から始まるのだという事実を知った。

第四に、キャンパス内の充実である。ここでは私が行った本郷キャンパスについて記述する。本郷キャンパスは東京ドーム約 11 個分という広さを誇っている。キャンパス内には、多くの植物が植えてあり、緑に囲まれた大学である。キャンパス内に総合図書館や研究室などの様々な施設が多くあり、自らの研究に没頭できるような設備がしっかりと整っている。東大の施設は一つ一つ立派で、何よりきれいである。これは、国立大学としてはまれなことだという。このように施設的な面はもちろんのこと、学生生活で困ったようなことがあれば相談できる場所や、自分の研究を深めたいときに使うことができる資金もある。制度的な面からも学生を支える環境が整っているのだ。

東京大学という大学は、頑張る人たちが集まり、それをさらに支え発展させていく大学であると感じた。そして、世間一般が思うような、元から才能に恵まれた人たちではなく、彼らが特別なのではなく努力の賜物なのである。このような努力の積み重ねが東大生の成功の秘訣だと思う。東大生に特別な才能があるとすれば、それは継続する力である。私自身もそうであるが、継続することは簡単ではない。しかし、成功とは何かを継続した先にしかないものである。東大の先輩は言っていた。大学の授業で大切になってくるのは基礎であると。ここに言う基礎とは、高校での勉強である。大学に行くと、自分の専門分野だけ、例えば理系科目に偏りがちになり文系科目を軽視しがちになる。しかし世の中の物事は密接に関係しているのであり、決して無関係ではない。高校の勉強では得意不得意をつくらないことが大切だ。基礎を作ることが、大学での学習のスタートラインになる。そしてもしこれをおろそかにした場合、仮にどんなに良い大学に入れたとしても、大きな成長は期待できないだろう。逆に、基礎を確かなものにするによって大学での学習を円滑に進めることができるだろう。だから私は高校での学習をおろそかにせず、努力していこうと思う。また、大学に入ってから高校での勉強、すなわち基礎を大切に自ら考え、自ら行動していきたい。基礎段階での学習が、自分で考えていく力のもとになり、その上で自発的に考え発展させていくことができる。今回の東大見学会では、大学というものを知ることができただけでなく、大学に入るにはどんなことが必要か、また、大学に入ってから何をしていくべきか、そして高校のうちで何をしておくべきかを知る良い機会となった。今回の実りある経験を、自分のこれからの高校生活に役立てていきたいと思う。

